



最先端の乳房超音波画像診断装置
(ABUS)も導入。



手術室スタッフ



検査室スタッフ



化学療養室スタッフ



受付スタッフ

に配慮している。同院ではスタッフが患者に気さくに話しかける光景を院内の随所で見れる。医療者側からひざを折って、目線を合わせ、交流する機会を増やすことで、患者が打ち解けて重い口を開きやすくなる。医療者はうつ病になり相談専用の電話回線が設置されおり、発熱や容態急変

時をはじめ、諸種の連絡や問合せに薬剤師や看護師が直接対応している。腋窩リンパ節郭清術後に多いリンパ浮腫のケアのための外来（リンパ浮腫外来）や、遺伝性を危惧する乳がん多発家系患者に対応する遺伝相談外来なども開院する。その他にも託児所最寄り駅間のシャトル（福祉車両）の設定など、患者目線に徹した支援体制が敷かれている。

アをくぐると、まず目に飛んでくるのは優しい表情のお地蔵さまと「ようこそ」の言葉である。これらは知多半島内海のアーティスト丹羽善久氏（「せんきゅうさん」）による作品だ。同院では、乳がんに悩み苦しみ疲れ果てた患者がやすらぎ、くつろげる空間・時間を作りたい、との想いから多くのアイテム・設備を導入している。寝たきり患者がそのまま快適に入浴できる特殊浴槽室。その隣室は高級温泉旅館を思わせる信楽焼浴槽（マリイチ奥田陶器製）を備え、入院患者のみならず外

と考え、大切にしています」と水谷院長。今後も「温かく優しい手作りの乳がんの医療」に力を尽くすと強面の眼が和んだ。 取材／滝戸直央

に配慮している。同院ではスタッフが患者に気さくに話しかける光景を院内の随所で見れる。医療者側からひざを折って、目線を合わせ、交流する機会を増やすことで、患者が打ち解けて重い口を開きやすくなる。医療者はうつ病になり相談専用の電話回線が設置されおり、発熱や容態急変

時をはじめ、諸種の連絡や問合せに薬剤師や看護師が直接対応している。腋窩リンパ節郭清術後に多いリンパ浮腫のケアのための外来（リンパ浮腫外来）や、遺伝性を危惧する乳がん多発家系患者に対応する遺伝相談外来なども開院する。その他にも託児所最寄り駅間のシャトル（福祉車両）の設定など、患者目線に徹した支援体制が敷かれている。

アをくぐると、まず目に飛んでくるのは優しい表情のお地蔵さまと「ようこそ」の言葉である。これらは知多半島内海のアーティスト丹羽善久氏（「せんきゅうさん」）による作品だ。同院では、乳がんに悩み苦しみ疲れ果てた患者がやすらぎ、くつろげる空間・時間を作りたい、との想いから多くのアイテム・設備を導入している。寝たきり患者がそのまま快適に入浴できる特殊浴槽室。その隣室は高級温泉旅館を思わせる信楽焼浴槽（マリイチ奥田陶器製）を備え、入院患者のみならず外



木製で丸みのある椅子が配置され、ぬくもりのある雰囲気。



患者の心を和ませるインテリアが院内随所に配置されている。

乳がん治療に頼れる病院

乳がんの患者が 『より良く生きる』 ためのサポートに努める

三河乳がんクリニック

三河乳がんクリニックの理念

私たち三河乳がんクリニックは皆様にお約束いたします!!
高水準の乳がん治療によって乳がん死ゼロを目指します。
乳がんの医療の全経過において責任を持って担当します。
どんな時も患者を中心と考えた乳がん診療を徹底します。
温かく優しい手作りの医療をスタッフ一同で実践します。
患者のこころのケアも含めた全人的医療を取り組みます。

**乳がんに悩む患者を
全力で支援する**



院長 水谷 三浩
みずたに・みづひろ ●日本外科学会認定
外科専門医、日本乳癌学会認定乳腺専門
医、日本超音波医学会認定超音波専門
医。日本産婦人科乳腺医学会理事。

多くの乳がん難民の救済につなげたいのです」と水谷三浩院長は語る。最近同院では妊娠・授乳期女性は対象外となるが決して稀でない現状に対しては、妊娠・授乳期女性に対しても積極的に超音波検診を実施することによる乳がんの予後悪化を防ぐことが急務とのこと。同院は専門施設としての使命感も原動力としているよ

うだ。水谷院長によると、妊娠・授乳期女性に対しても積極的に超音波検診を実施することで、乳がんの早期診断は可能である。産婦人科医とともに連携し、妊娠・授乳期を経ることによる乳がんの予後悪化を防ぐことが急務とのこと。同院は専門施設としての使命感も原動力としているよ

**患者を中心とした
診療を徹底**

三河乳がんクリニックでは、高水準の診療提供は当然のこと、多職種のスタッフによるさまざまな患者支援の実践こそが最大の特長といえよう。がん患者は苦悩を表出せず、人知れず苦しんでいることが多いので、特に心のケア

患者にも開放されているユニークな浴室である。乳房切除後に温泉に入れなくなつた患者の寂しさを耳にした水谷院長が、院内で温泉気分を味わつてもらおうと、こだわって特注したとのこと。化学療法中の患者が、片手でもおいしく食べられる化學療法食、季節を盛込んだ病院食、ケーキ・パフェなどのデザートに至るまで提供するカフェ（富士産業委託）。木のぬくもりが感じられる柔らかい曲線が自慢の飛驒の匠の家具（飛驒産業製）等々、枚挙に暇がない。「すべてが私どもの医療

PRのページ

患者を全力で支援する
愛知県安城市の三河乳がんクリニックは、県内でもトップクラスの乳がんの臨床実績を持つ専門施設である。同院は日々の検診・診療業務のみならず、市民や医療者への啓蒙・教育活動にも積極的で、さらに造影マンモグラフィ

CESMや自動スキャン超音波装置ABUS（ともにGEヘルスケア社製）などの最先端技術の臨床研究にも余念がない。「当院は乳がんの臨床・教育・研究のいずれにも真摯に取り組んでいますが、その全ては患者を救うことに集約されます。増え続ける乳がん患者を全力で支援し、一人で

とを考え、大切にしています」と水谷院長。今後も「温かく優しい手作りの乳がんの医療」に力を尽くすと強面の眼が和んだ。 取材／滝戸直央

三河乳がんクリニックでは、高水準の診療提供は当然のこと、多職種のスタッフによるさまざまな患者支援の実践こそが最大の特長といえよう。がん患者は苦悩を表出せず、人知れず苦しんでいることが多いので、特に心のケア

三河乳がんクリニックでは、高水準の診療提供は当然のこと、多職種のスタッフによるさまざまな患者支援の実践こそが最大の特長といえよう。がん患者は苦悩を表出せず、人知れず苦しんでいることが多いので、特に心のケア